

キャンパる

ホームページ <http://my-campal.com/top/>
メール campal@mainichi.co.jp

個性豊かな仲間が集まるキャンパる。写真は昨年12月に行われたキャップ交代式。毎日新聞東京本社で



多様な大学生が取材に奮闘

今月「創刊」30周年を迎えたキャンパる。今春大学を卒業するとともに、キャンパるを卒業する記者が、キャンパるの魅力を紹介したい。

1989(平成元)年2月、毎日新聞夕刊(東京本社版)で掲載が始まった。当初は毎週土曜日、その後、金曜日となり現在は毎週火曜日の夕刊に掲載されている。編集部は、毎日新聞の編集委員である編集長と首都圏を中心にいろんな大学に通う約30人の学生記者で構成されている。

記事のテーマは大学に関することや大学生が関心があること。記者もキャンパるに在籍して以来、大学のバレーサークルや活躍している大学生、教授などを取材してきた。

記者が特に力を入れているのは「箱根駅伝取材班」。毎年秋ごろに結成される取材班では、箱根駅伝に出場する大学1校を選び、選手や監督を取材する。記者のように以前から箱根駅伝が好きだった人だけでなく、取材班を通してとりこになる人もいる。1月2、3日は朝から沿道で一眼レフを構え選手たちの活躍を見守る。今年の取材班キャップを務めたのは早稲田大3年の廣川萌恵さん。「あこがれの駒沢大を取材でき、1年で最もワクワクドキドキした」

また、毎年夏に結成される「戦争を考える取材班」は、個人がそれぞれネタ(取材対象)を探してきて、取材班会議でプレゼン。ネタを認められないと取材ができないのでシビアだ。

会議をまとめ、進行するのはキャップと呼ばれる数人の学生メンバーだ。キャップは紙面計画をたて毎週の紙面を埋めるなどキャンパるの責任者だ。昨年キャップを務めた一橋大3年の川平朋花さんは「他の人の原稿を見たり、取材に同行したりした。自分の興味関心以外にも触れられて幅が広がった」と充実している様子。

キャンパるの魅力は取材して記事を書くだけではない。会議後の食事会で部員同士の仲を深めたり、「山の会」では、高尾山や筑波山など関東近郊の山に登ったりする。山の会幹事の東京女子大4年の後藤瑠子さんは「山登りの経験はなかったが、みんなで登りながらおしゃべりすれば仲良くなれて楽しい」と話す。ほかにも「写真部」は、浅草や動物園などいろいろな場所に出かけ、おのおの自由に一眼レフで撮影する活動を行っている。他大学の学生とさまざまな話をし、刺激を受けることができ、貴重な経験だ。

記者がキャンパるに参加したきっかけは、大学の先生に勧められたから。マスコミ志望の人はもちろん、そうでない人も誰でも取り組める。

毎週火曜日の午後6~8時、毎日新聞東京本社で編集会議を開いている。問い合わせ、見学希望の方は(campal@mainichi.co.jp)まで。一緒に学生生活を楽しみませんか。

【東洋学園大・釘田まこと】